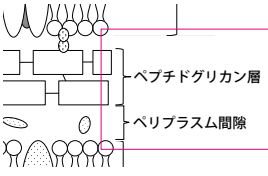
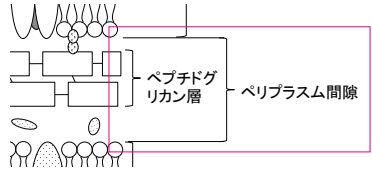


【第1刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第4版」正誤表

	誤	正
68頁 左段 下から19行目	フェリン、ヘモグロビンなどの鉄結合蛋白質 (シデロフォア siderophore) との複合体であり、	フェリン、ヘモグロビンなどの鉄結合蛋白質との複合体であり、
68頁 左段 下から14行目	鉄結合蛋白質を分泌し、鉄-シデロフォア結合体	鉄結合蛋白質 (シデロフォア siderophore) を分泌し、鉄-シデロフォア結合体
80頁 右段 下から6行目	80%, イソプロパノールでは 30 ~ 50% の至適	80%, イソプロパノールでは 50 ~ 70% の至適
112頁 右段 下から12行目	性結核菌), <i>Y. enterocolitica</i> (エルシニア腸炎) の	性結核菌), <i>Y. enterocolitica</i> (腸炎エルシニア) の
113頁 表 8-3「仮性結核」の「病原体」の項	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>
116頁 左段 下から8行目	至適培養温度は 37℃で、普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、	普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、
122頁 左段「(1)分類」の1行目	パストレラ <i>Pasteurella</i> 属, マンヘイミア <i>Mannheimia</i> 属および	マンヘイミア <i>Mannheimia</i> 属および
123頁 右段 上から10行目	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin
155頁 表 8-23「病原体」の項, 下から2段目	<i>Plebotella</i> sp.	<i>Prevotella</i> sp.
294頁 左段 下から1行目	肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら	や C 型肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら
466頁 右段 上から1行目	属, ナニチア <i>Nanizzia</i> 属, トリコフィトン	属, ナニチア <i>Nannizzia</i> 属, トリコフィトン
467頁 表 14-2「皮膚糸状菌症 (人獣)」の「主要原因菌」1行目	<i>Microsporum canis</i> , <i>Nannizzia gypsea</i> ,	<i>Microsporum canis</i> , <i>Nannizzia gypsea</i> ,
467頁 表 14-2「スポロトリクス症 (人獣)」の「主要原因菌」2行目	<i>S. schenckii sensu stricto</i>	<i>S. schenckii sensu stricto</i>
467頁 右段 下から3行目	70% が <i>Microsporum canis</i> で, <i>Nannizzia gypsea</i>	70% が <i>Microsporum canis</i> で, <i>Nannizzia gypsea</i>
468頁 左段 上から6行目	への感染源となる。その他 <i>Nannizzia gypsea</i> ,	への感染源となる。その他 <i>Nannizzia gypsea</i> ,
468頁 右段 上から1行目	(2) <i>Nannizzia gypsea</i> および <i>N. incurvata</i>	(2) <i>Nannizzia gypsea</i> および <i>N. incurvata</i>
468頁 図 14-9 キャプション	<i>Nannizzia gypsea</i> の集落	<i>Nannizzia gypsea</i> の集落
469頁 図 14-10 キャプション	<i>Nannizzia gypsea</i> の大分生子	<i>Nannizzia gypsea</i> の大分生子
469頁 左段 上から3行目	関係の深い土壌中から効率的に分離される。	関係の深い土壌中から高率に分離される。
474頁 右段 上から9行目	<i>brasiliensis</i> , <i>S. schenckii sensu stricto</i> ,	<i>brasiliensis</i> , <i>S. schenckii sensu stricto</i> ,
474頁 右段 上から12行目	<i>globosa</i> , <i>S. schenckii sensu stricto</i> ,	<i>globosa</i> , <i>S. schenckii sensu stricto</i> ,
474頁 右段 下から11行目	原性が認められる。スポロトリクスは二形成菌	原性が認められる。スポロトリクスは二形性菌
474頁 右段 下から6行目	スポロトリクスは, 世界各地の温暖~熱帯に	スポロトリクスは, 世界各地の温帯~熱帯に
475頁 左段 上から14行目	<i>sensu stricto</i> で, ブラジルと同様に	<i>sensu stricto</i> で, ブラジルと同様に

「獣医微生物学 第4版」正誤表 (第3刷)

	誤	正																
19頁 右段 下から2行目	とも呼ばれる) とペプチドグリカン層の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が	とも呼ばれる) と外膜の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が																
20頁 図 2-8 の右側の中ほど																		
64頁 表 5-1 右列「毒素による症状」の1行目	水溶性下痢	水様性下痢																
77頁 表 6-1 上から7行目の「D値」	14	1.5 ~ 3																
114頁 表 8-4	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
125頁 左段 下から1行目	表 8-11 に示したように, <i>H. influenzae</i> と <i>Mannheimia haemolytica</i> はオキシダーゼを産生し, 発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが, <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> はオキシダーゼを産生せず, V 因子のみを要求する。	表 8-11 に示したように, <i>H. influenzae</i> は, 発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが, <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> は, V 因子のみを要求する。																
125頁 表 8-11 「 <i>M. haemolytica</i> 」の列の上から2行目, 3行目	+	-																
	+	-																
128頁 右段 上から1行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は	エステラーゼをはじめとするプロテアーゼなどの細胞外酵素は																
149頁 左段 上から4行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し,	感染する。細胞内では細胞質基質で増殖し,																

【第2刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第4版」正誤表

	誤	正
116 頁 左段 下から 8 行目	至適培養温度は 37℃で、普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、	普通寒天培地や TSA 培地などの一般培地でよく発育し、
122 頁 左段 「(1)分類」の 1 行目	パスツレラ <i>Pasteurella</i> 属、マンヘイミア <i>Mannheimia</i> 属および	マンヘイミア <i>Mannheimia</i> 属および
123 頁 右段 上から 10 行目	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin	ある易熱性の皮膚壊死毒素 dermonecrotic toxin
142 頁 左段 下から 15 行目	スピリルム <i>Spirillum</i> 属は、	スピリルム <i>Spirillum</i> 属は、
294 頁 左段 下から 1 行目	肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら	や C 型肝炎ウイルスに関する生化学的な知見が多く得ら

「獣医微生物学 第4版」正誤表 (第3刷)

	誤	正																
19 頁 右段 下から 2 行目	とも呼ばれる) とペプチドグリカン層の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が	とも呼ばれる) と外膜の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が																
20 頁 図 2-8 の右側の中ほど																		
64 頁 表 5-1 右列 「毒素による症状」の 1 行目	水溶性下痢	水様性下痢																
77 頁 表 6-1 上から 7 行目の 「D 値」	14	1.5 ~ 3																
114 頁 表 8-4	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
125 頁 左段 下から 1 行目	表 8-11 に示したように、 <i>H. influenzae</i> と <i>Mannheimia haemolytica</i> はオキシダーゼを産生し、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、 <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> はオキシダーゼを産生せず、V 因子のみを要求する。	表 8-11 に示したように、 <i>H. influenzae</i> は、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、 <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> は、V 因子のみを要求する。																
125 頁 表 8-11 「 <i>M. haemolytica</i> 」の列の上から 2 行目, 3 行目	+	-																
128 頁 右段 上から 1 行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は	エラスターゼをはじめとするプロテアーゼなどの細胞外酵素は																
149 頁 左段 上から 4 行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し、	感染する。細胞内では細胞質基質で増殖し、																

【第3刷をお持ちの方】

「獣医微生物学 第4版」正誤表 (第3刷)

	誤	正																
19 頁 右段 下から 2 行目	とも呼ばれる) とペプチドグリカン層の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が	とも呼ばれる) と外膜の間にペリプラスム間隙 periplasmic space が																
20 頁 図 2-8 の右側の中ほど																		
64 頁 表 5-1 右列「毒素による症状」の 1 行目	水溶性下痢	水様性下痢																
77 頁 表 6-1 上から 7 行目の「D 値」	14	1.5 ~ 3																
114 頁 表 8-4	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+	<p>表 8-4 <i>Yersinia</i> 属主要菌の生化学性状</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th><i>Y. pestis</i></th> <th><i>Y. enterocolitica</i></th> <th><i>Y. pseudotuberculosis</i></th> <th><i>Y. ruckeri</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> </tbody> </table>	<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>	-	+	+	+
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
<i>Y. pestis</i>	<i>Y. enterocolitica</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>	<i>Y. ruckeri</i>															
-	+	+	+															
125 頁 左段 下から 1 行目	表 8-11 に示したように、 <i>H. influenzae</i> と <i>Mannheimia haemolytica</i> はオキシダーゼを産生し、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、 <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> はオキシダーゼを産生せず、V 因子のみを要求する。	表 8-11 に示したように、 <i>H. influenzae</i> は、発育に際して X 因子と V 因子を両方要求するが、 <i>H. parasuis</i> と <i>Avibacterium paragallinarum</i> は、V 因子のみを要求する。																
125 頁 表 8-11 「 <i>M. haemolytica</i> 」の列の上から 2 行目, 3 行目	+	-																
128 頁 右段 上から 1 行目	エステラーゼやプロテアーゼなどの細胞外酵素は	エラスターゼをはじめとするプロテアーゼなどの細胞外酵素は																
149 頁 左段 上から 4 行目	感染する。細胞内では細胞基質で増殖し、	感染する。細胞内では細胞質基質で増殖し、																